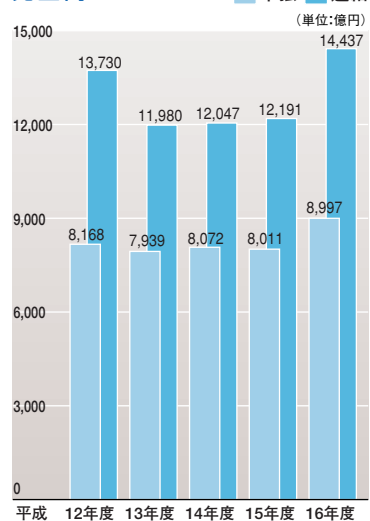


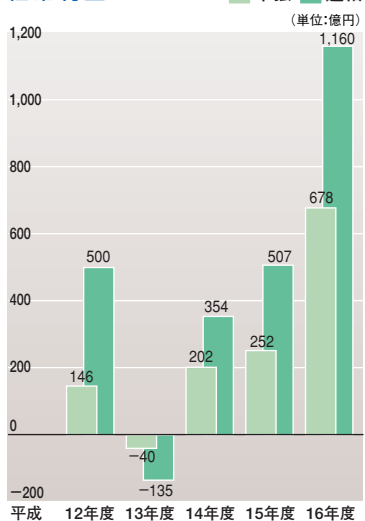
Financial Report 業績のご報告

財務ハイライト

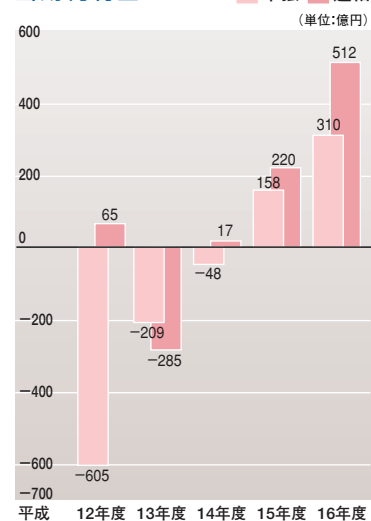
売上高



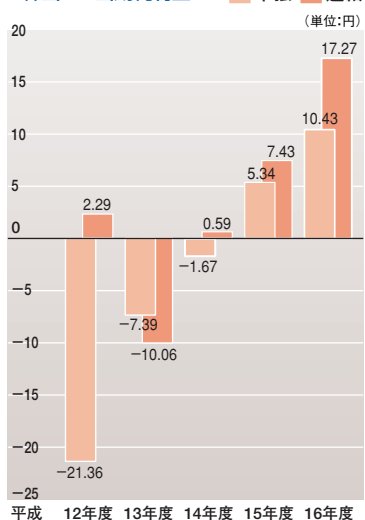
経常利益



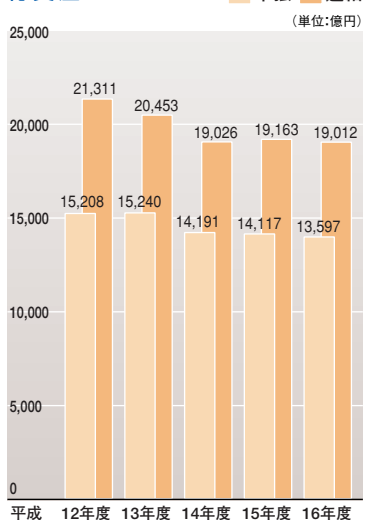
当期純利益



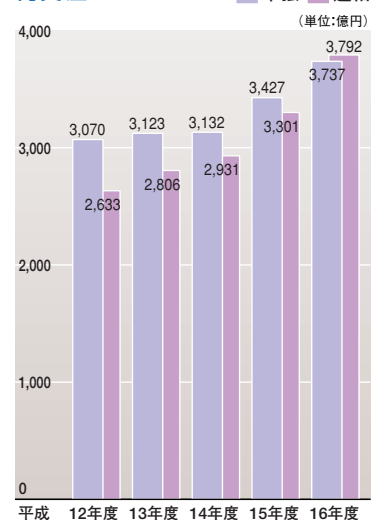
1株当たり当期純利益



総資産



純資産



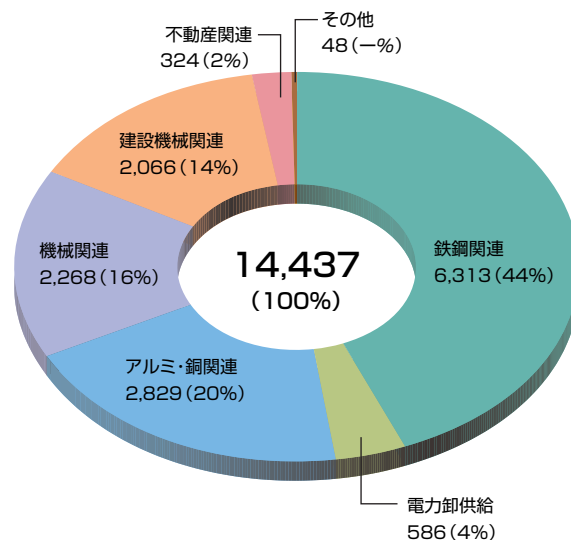
当期の概況

当期のわが国経済は、下半期において、IT関連分野の在庫調整などにより景気はやや足踏み状況となったものの、全体としては中国を始めとするアジアおよび米国経済が堅調であったことや、企業収益が改善し民間設備投資が増加したことなどから、回復基調を維持してまいりました。

当期の連結業績は、売上高は前期に比べ2,245億円増収の1兆4,437億円、営業利益は658億円増益の1,665億円、経常利益は652億円増益の1,160億円となりました。また、税引き後の当期純利益は、財務体質の更なる健全化を目的に、減損会計の早期適用による損失や、平成17年度におけるたな卸資産の評価方法変更在先立つ評価減の実施に伴う損失を、特別損失として計上したことなどから、512億円となりました。

単独業績につきましては、売上高は前期に比べ986億円増収の8,997億円、営業利益は444億円増益の1,057億円、経常利益は425億円増益の678億円となりました。また、税引き後の当期純利益は310億円となりました。

■セグメント別売上高(平成16年度) (単位:億円)



(注) その他には「電子材料・その他の事業」とセグメント間の内部売上高等の消去額が含まれております。

鉄鋼関連事業

国内市場は、造船、自動車、産業機械業向けが堅調であったことに加え、不振であった建設業も非住宅向け需要が回復し、全体として好調に推移しました。また、輸出は、中国を中心としたアジア市場の拡大により高水準を維持しました。一方、世界的に鋼材需給が逼迫し、鋼材価格の改善が進みました。また、鋳鍛造品、チタン製品の売上高も前期を上回りました。溶接材料では、国内が好調であったことに加え、輸出についても東南アジアの自動車向けを中心に、需要は堅調に推移しました。

この結果、売上高は前期比18%増の6,313億円となり、営業利益は前期に比べ389億円増益の918億円となりました。

■今後の課題…鉄鋼関連では、大幅な原材料価格の高騰が見込まれるため、販売価格の改善や徹底したコストダウンに取り組みます。また、現状の高水準の生産を安定的に維持するとともに、特殊鋼、ハイテン(高張力鋼板)など特長ある製品の拡販に注力します。

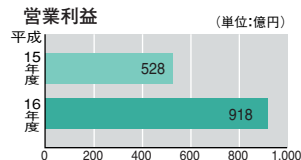
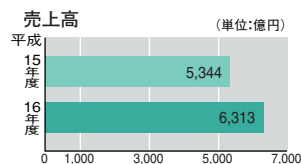
溶接材料分野では、価格改善や生産量の確保に取り組むとともに、事

業統合効果の極大化を図ります。海外では、事業規模の拡大により、グループとして世界のリーディングカンパニーを目指します。



加古川製鉄所第8線材工場

●鉄鋼関連事業



電力卸供給事業

既に稼動している神鋼神戸発電所の1号機に続いて、昨年4月、2号機が営業運転を開始したことにより、両機あわせて140万キロワットの電力供給体制が整いました。

この結果、売上高は前期比ほぼ倍増の586億円となり、営業利益は前

期に比べ109億円増益の194億円となりました。

■今後の課題…安定操業に努め、収益確保を図るとともに、都市型発電所として徹底した環境対策とともに、地域との交流・共生に取り組みます。



神鋼神戸発電所

アルミ・銅関連事業

アルミ圧延品では、国内市場は、猛暑の影響やアルミボトル缶の採用増により飲料用缶材の需要が堅調であり、また、自動車や半導体・液晶製造装置向けの板材、自動車向け押出材も好調に推移しました。一方、缶材の輸出を抑制した影響で、全体では前期を若干下回りました。銅圧延品では、板条の自動車電装部品用端子が堅調で、半導体リードフレームも上半期に好調でした。また、銅管では、三菱マテリアル株式会社と

の事業統合効果に加え、空調用銅管の需要が増加し、銅圧延品全体として前期を上回りました。

これに加えて、地金価格の高騰と販売価格の上昇もあり、売上高は前期比16%増の2,829億円となり、営業利益は前期に比べ19億円増益の169億円となりました。

■今後の課題…アルミボトル缶の需要を最大限に取り込むほか、成長を続ける自動車・IT関連向け高付加価値製品の拡販

を図ります。また、本年6月に生産を開始した北米の自動車用アルミ鍛造部品の製造・販売会社「コウベ・アルミニウム・オートモーティブ・プロダクツ」において、操業と品質の早期安定化を目指します。



自動車用アルミ材

機械関連事業

受注は、国内市場向けは、公共事業の鋼構造や水処理案件などが低迷したものの、堅調な民間設備投資を背景に圧縮機等が増加し、前期に比べほぼ横ばいでした。海外向けは、世界的な鉄鋼需要の増大によって、直接還元製鉄プラントの受注が相次ぎ、加えて、非汎用圧縮機、ゴム・タイヤ機械等も好調に推移しました。

この結果、受注高は前期比50%増の2,761億円となり、当期末の受注

残高は2,351億円となりました。また、売上高は前期比16%増の2,268億円となり、営業利益は前期に比べ88億円増益の103億円となりました。

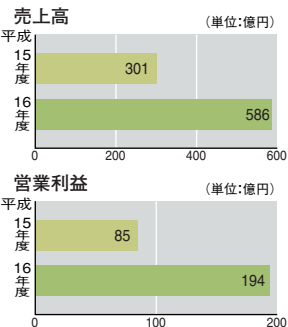
■今後の課題…圧縮機・エネルギー関連機器等の最大受注量の確保を目指し、収益力の更なる強化に取り組めます。一方、直接還元製鉄プラントでは、新設需要獲得に全力をあげるとともに、当社開発の次世代製鉄法「ITmk3」の商業化の実現に

向け、注力します。

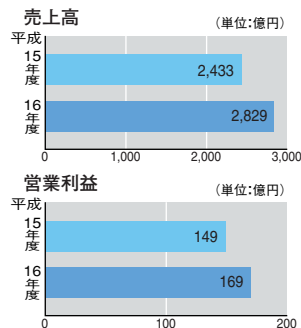


タイヤプレス

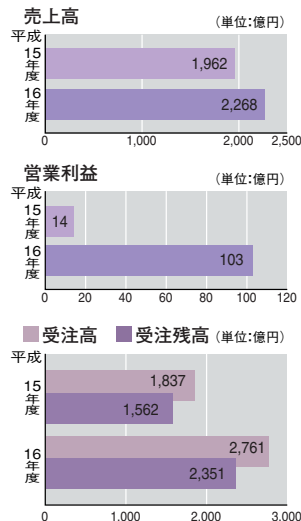
●電力卸供給事業



●アルミ・銅関連事業



●機械関連事業



建設機械関連事業

国内市場は、公共工事の低迷が続いているものの、更新需要などに支えられ堅調に推移しました。一方、海外市場では、中国のショベル需要が政府の投資抑制策により冷え込みましたが、欧米・東南アジア・中東向けが好調に推移しました。加えて、クレーン事業が大幅増収となりました。

この結果、売上高は前期比12%増の2,066億円となり、営業利益は中国市場の低迷や資材価格の高騰などにより、前期に比べ8億円減益

の72億円となりました。

■今後の課題…鋼材を中心とする資材価格の更なる高騰が見込まれ、販売価格の改善に全力をあげて取り組みます。また、昨年4月、コベルコ建機株式会社の子会社として、コベルコクレーン株式会社を設立しました。

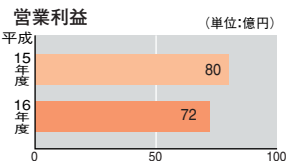
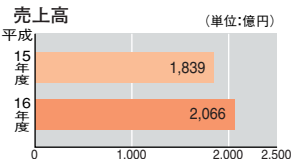
今後は、ショベル・クレーンの製品メニュー、業界特性に応じた運営体制のもと、それぞれの提携先とも連

携を図りながらグローバルな事業展開を推進します。

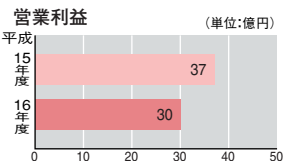
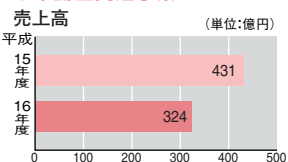


後方小旋回ショベル

●建設機械関連事業



●不動産関連事業



不動産関連事業

オーズタウン(兵庫県明石市)、摩耶シーサイドプレイス(神戸市灘区)などの大規模開発分譲が一巡したこともあり、売上高は前期比25%減の324億円となり、営業利益は前期に比べ6億円減益の30億円となりました。

■今後の課題…本年10月1日を分割期日として当社の不動産部門

を会社分割し、当社の100%子会社であるコベルコ開発株式会社に統合する予定です。この統合により、

事業運営上の機動性・柔軟性を確保することによって、市場競争力や収益力を更に高めます。



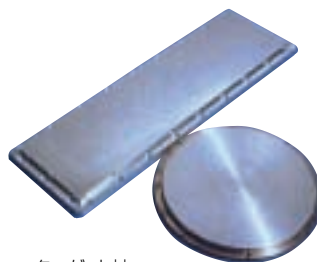
HAT神戸

電子材料・その他の事業

液晶ディスプレイ用ターゲット材などの需要が好調に推移したことなどから、全体の売上高は前期比19%増の540億円となり、営業利益は前期に比べ59億円増益の140億円となりました。

■今後の課題…今後もフラット・パネル・ディスプレイの出荷台数の

増加が見込まれることから、液晶ディスプレイ用ターゲット材の需要増を確実に取り込みます。加えて、次世代光ディスク分野などについても、特長ある製品の開発に努めます。



ターゲット材

●電子材料・その他の事業

